

認定心理士の会から

学びの主体は「あなた」です！

先日、ある懇親会での雑談で、「科学の発展とともに、心理学も日々進化してきている」という話題になりました。たとえば、私が大学時代に学んだ教育学や心理学の講義では、「オオカミに育てられた少女」の話はよく出てきましたし、そのような話が小学校の教科書にも掲載されたり、公立学校の教員採用試験の問題に出題されたりもしました。しかし、時代が変わった今ではその話は真実ではないと判明しましたので、取り上げられなくなっています。

前号で、私は、認定心理士の会では、「最新の『心理学』について主体的に学べるように、わくわくするイベント等を企画し、学びの場を提供します」と書きました。

心理学と一言で言っても、さまざまな分野の心理学があり、また、時代とともに、日々、心理学も進歩しています。そのような中、認定心理士の皆様には、ぜひ、さまざまな分野の最先端

の心理学について学んでもらいたい、いや、私自身も皆様とともに学びたいと考え、今の役職を拝命したからには、皆様にそのような学びの場を可能な限り提供させていただきたいと思っています。

学びは自らが主体的に行うものであり、いわば学びの主体は「あなた」です。認定心理士の会の皆様が主体的に学ぶためにも、その方法や内容、企画までも含めてたくさんのアイデアを私たちに提言していただき、今後のイベントの企画や運営にも積極的にご協力いただけることを期待しています。

認定心理士の会の最新の情報を提供している、認定心理士の会のFacebookにもぜひ、ご登録、ご参加くださいね！

(認定心理士の会運営委員会委員・国立特別支援教育総合研究所総括研究員 大崎博史)

若手の会から

大会における若手の会の活動報告

仙台市で開催された第82回大会は、若手の会発足以降5回目の節目の大会でした。大会1日目には17名の若手がワンショット発表を行い、自身の演題を1分間で宣伝しました。各発表者が1分を最大限に使うために様々な工夫を凝らしていました。また、学部生プレゼンバトルでは10名もの学部生が自身の興味のあるトピックや研究について5分間でプレゼンし、そのスキルを競い合いました。自身がすでに行った実験のデータを披露する発表者も現れ、レベルの高いバトルが繰り広げられました。

2日目、若手の会が今年度新たに日本心理学会の委員会として位置づけられたことを受けて、「日本心理学会若手の会キックオフシンポジウム：若手にとってこれから必要なこと」と題して、多くの若手会員の関心事である「研究費獲得」「留学」「就職活動」について情報共有

しました。4名の先生方に話題提供いただき、「移りゆく時代のニーズの中で今後も若手にとって本当に必要なこととは何か？」という質問をめぐってフロアで議論がなされました。

シンポジウムの後には「若手の進路相談会」として、シンポジストと若手の会幹事が参加者からの相談を受ける企画も行い、さまざまな質問が寄せられました。この企画は若手の会企画を運営する側にとっては、多くの若手心理学者と交流する貴重な機会にもなっています。多領域の心理学者が一堂に会する日本心理学会ならではのニーズの多様性を改めて実感し、「当会の若手に資する活動とは何か？」を一層考える機会となりました。

今回汲み上げたものを少しでも運営に活かすことができると考えています。若手の会の企画について、ご意見やご要望を jpa-ecp@psych.or.jp まで、ぜひお聞かせください！

(若手の会代表幹事 前田駿太・三浦佳代子)